

報道関係者各位

PRESS RELEASE 2016年9月2日

No. 2016-034-1/2

時代とジャンルを超えた伝統芸能と現代美術の融合、新たな表現で日本を世界に発信！

野村萬齋 × 杉本博司

かみひそみいき

“ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域～”公演の開催

(スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 公式プログラム文化イベント)

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、Bunkamura(株式会社東急文化村)と共催し、文部科学省等主催による「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の公式プログラムの文化イベントとして、古典芸能の枠を越えて第一線で活躍する狂言師・野村萬齋氏の出演、現代美術作家として幅広く活躍する杉本博司氏の構成・美術による「ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域～」を上演いたします。

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」に参加する世界各国のスポーツ大臣、政府関係者及び世界経済フォーラムの若手ビジネスリーダー等、海外からの要人を招待し、日本の伝統芸能・現代美術の枠を超えた新たな日本の舞台芸術の魅力を発信すると共に、広く日本の一般の皆さまにも参加を呼びかけ、ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021等に向けた機運醸成を行います。

つきましては、貴媒体にて本公演のご紹介、また当日のご取材をご検討下さいますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。ご取材については、電話:03-5369-6089 または電子メール(press@jpf.go.jp)にてご連絡をください。なお、当日の取材をご希望の場合は10月12日(水)までにご連絡願ひます。



■スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 公式プログラム文化イベント

「ディヴァイン・ダンス 三番叟 ^{かみひそみいき} ～神秘域～」

- 【日時】 2016年10月21日(金)19時～20時(開場:18時)
- 【会場】 Bunkamura オーチャードホール(東京都渋谷区道玄坂2-24-1)
- 【演目】 ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域～
- 【出演】 野村 萬齋(狂言師)
- 【構成・美術】 杉本 博司(現代美術作家)
- 【実施体制】 主催:国際交流基金、文部科学省 共催:Bunkamura
制作協力:公益財団法人小田原文化財団
- 【申込】 入場無料 [要事前申込・抽選] ※小学生未満入場不可
(受付期間:9月2日(金)～9月23日(金) <消印有効>)

Bunkamura ウェブサイトまたは郵便ハガキにてお申し込みください。

Bunkamura ウェブサイト: http://www.bunkamura.co.jp/orchard/lineup/16_sambaso.html

郵便ハガキ: 郵便番号、住所、氏名、電話番号、ご希望の枚数(2枚まで)、ご入場の際会場スタッフのサポートを必要とされる方は、どのようなサポートが必要かをご記入の上、ご郵送ください。

応募先: 〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 Bunkamura「ディヴァイン・ダンス 三番叟」係

※当選者の発表は10月7日(金)までに招待状(座席指定券引換ハガキ)の発送をもって代えさせていただきます。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金文化事業部事業第1チーム(担当: ^{ふたこ}二子)

Tel:03-5369-6061

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当: 川久保、森)

Tel:03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域～（解説：杉本博司）

三番叟は我が国に伝わる幾多の芸能の中でも、最も古い形式を留める古曲である。その源は天照大神の天岩戸伝説の頃まで遡ることができると言われている。この舞は、神が降霊する様を現したものであり、神事として最も重い曲として扱われる。その曲の流れは、時に静かに、時に激しく、舞を舞う生身の人間の身体に、密かに舞い降りる神霊の姿が見え隠れする。我が国における神の姿は、古来より気配としてのみ現われる。その気配は、現代社会へと随した今日の日本にあっても、確実に存在することを、あなたは目の当たりにする。そして神が秘そむ域で、あなたは息を潜める。

松羽目にかえて、雷(いかづち)を染め抜いた幔幕をもって古代の神話空間とした。



野村 萬齋(のむら まんさい)（出演）



狂言師。1966年生まれ。人間国宝・野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。著書に『萬齋でござる』『MANSAI◎解体新書』（朝日新聞出版）、『狂言サイボーグ』（日本経済新聞社）等がある。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。

杉本博司（すぎもと ひろし）（構成・美術）



現代美術作家。1948年東京生まれ。1974年よりニューヨーク在住。徹底的にコンセプトを練り上げ、精緻な技術によって表現される銀塩写真作品は世界中の美術館に収蔵されている。近年は執筆、設計へも活動の幅を広げ、2008年建築設計事務所「新素材研究所」を設立。主な著書に『空間感』（マガジンハウス）、『アートの起源』（新潮社）等。内外の古美術、伝統芸能に対する造詣も深く、『杉本文楽 曾根崎心中付り観音廻り』（2011）等の演出を手掛ける。現在、東京都写真美術館にて個展開催中。2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞、2010年秋の紫綬褒章を受章。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ章受勲。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラム

ラグビーワールドカップ 2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ 2021 等に向けて、観光とも連動させつつ、スポーツ、文化、ビジネスによる国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、国際的に機運を高めるためのキックオフイベントとしての国際会議を、2016年リオ大会直後の秋に、京都と東京で開催。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部事業第1チーム(担当：^{ふたこ}二子)
Tel:03-5369-6061

●取材に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター(担当：川久保、森)
Tel:03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp